

事業の効果とりまとめ

ワークショップを行い、観光コンテンツを生み出しそのことで必要な人材育成に繋げることができた。
ささしまちづくり協議会各会員企業より参加。

冬季イベントの実施（シャトルバス乗車率

本事業では、人の来訪が特に少ない冬季における集客の可能性を検証するため、計画的かつ戦略的に冬季イベントを開催した。本イベントは、単なる集客目的ではなく、冬季の移動手段の利便性向上を図る社会実験の一環として実施した。

特に、ラストワンマイルの移動手段としてバス利用の促進に重点を置き、イベント開催に合わせて周知活動を強化した。ポスターを開催地や近隣施設、バス車内、駅構内などに掲示し、加えて公式HPやSNSを活用して広く情報を発信することで、認知度を大幅に向上させた。その結果、イベント当日のバス利用者が増加し、冬季における公共交通の需要喚起を促すことができた。

本取り組みを通じて、冬季における集客施策の有効性や、公共交通との連携による相乗効果が確認できた。

デジタルコンテンツの開発と展開

本事業では、地域の魅力をより多くの人に知ってもらうことを目的とし、地域内を回遊しながら楽しめる謎解きコンテンツを企画・制作した。本コンテンツは、単なる娯楽要素にとどまらず、地域の歴史や文化を体験的に学べる仕組みを取り入れ、土地の特性を最大限に活かした世界観を構築した。

開発にあたっては、ワークショップを通して地域の歴史的背景や特長を調査し、物語性のあるシナリオを設計するとともに、参加者が実際に現地を訪れ、楽しみながら地域の魅力を深く理解できる仕組みを整えた。また、デジタル技術を活用することで、より没入感のある体験を提供できるよう工夫している。

今後は、本コンテンツをさらにブラッシュアップし、実装・運用へと展開していくことで、地域活性化の新たな手法として確立していく。



調査事業

データ分析の実施と活用

バスに乗車するターゲット層を明確にした

地域の現状を的確に把握し、今後の施策立案に活かすため、人流データの収集・分析を実施した。具体的には、平常時とイベント時の人の流れを比較・検証し、どの地域から来訪があるのか、またイベント開催による人流の変化がどのように発生しているのかを詳細に調査した。

分析結果をもとに、地域への来訪者の傾向や行動パターンを明確にし、今後の経済効果の試算や、地域の発展に向けたビジョン策定に反映させるための基盤を整えた。また、データの活用により、ターゲット層に適した施策の立案や、さらなる集客施策の展開につなげることが可能となる。

今後は、蓄積したデータを継続的に分析し、より精度の高い戦略を構築することで、地域の持続的な発展に貢献していく。



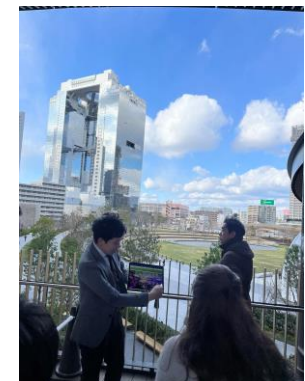
既存交通だけでなく新交通との連携も想定

先進地事例視察の実施と活用

本事業では、地域の発展に向けた施策立案の参考とするため、竹芝地区およびうめきた地区の2箇所を視察し、先進事例の調査・分析を行った。これらの地域は、都市開発や産業振興、地域活性化の成功事例として注目されており、それぞれの取り組みがどのように機能しているのかを詳細に検証した。

視察を通じて、先進地の成功要因を整理・精査し当地域に応用可能な要素を抽出した。特に、都市計画や官民連携の手法、持続可能な経済効果を生み出す仕組み、人材育成の考え方について重点的に分析し、今後の地域ビジョンの構築や人材育成カリキュラムへの反映を進めるための方向性を明確にした。

今後は、得られた知見をもとに地域特性に適した施策を検討し、実践へとつなげていくことで、持続可能な地域の発展に寄与していく。



シンポジウムの内容は今後動画配信していく

シンポジウムの開催と成果

本事業では、「名古屋駅～ささしまライブ～中川運河をつなぐ、ラストワンマイル交通の課題解決」をテーマに、シンポジウムを開催した。会場には110名、オンラインでは250名の参加者を集め、各分野の専門家や関係者が一堂に会し、活発な議論を行った。

本シンポジウムでは、地域内の大学や、運河でつながる高校、名古屋市内で始まっている新しい交通システム、他地域の先進事例など、多様な視点からの発表と意見交換が行われた。これにより、ラストワンマイル交通に関する課題の整理や、今後の施策立案に向けた新たな視点を得ることができた。

また、参加者同士の交流を通じて、今後の協力関係構築や具体的なアクションにつながる機会を創出することができた。今後は、本シンポジウムで得られた知見をもとに、地域の交通課題解決に向けた具体的な取り組みを推進していく。

次年度以降の継続事業として地域共創シンポジウムの開催を引き続き進めていく。



継続的な取り組みに向けて

本年度の、交通人材育成を目指しながら、地域の活性化や交通課題の解決に向けた具体的な成果を得ることができた。次年度以降、これらの取り組みをさらに発展させ、継続的に実施していく。

人材育成の充実

交通まちづくりは、特に地域を知ることが重要であるということを改めて認識できた。まちづくりから地域交通のコーディネータまで発展させていくカリキュラムを実践していく。

コンテンツの実装と運用

今年度の試験的な取り組みを踏まえ、実際の運用に向けたブラッシュアップを行う。交通機関との連携コンテンツとしてバージョンアップさせながら進めていく。

人流データの継続的な収集と分析

今回分析したデータを活用し、より精度の高い予測や交通施策立案を行う。また、関係機関と連携しながら、地域全体の発展につながる形で展開する。

先進事例の具体的な応用

先進地で得た知見をもとに、地域特性に適した形での施策実施を進める。特に、官民連携の強化や持続可能なささしままでの交通まちづくりを目指す。（新交通等の導入等）

交通人材システムの充実とカリキュラムの実践

より多くの関係者を巻き込み、実際の施策につながる具体的な議論を進める。

今年度の事業で得たカリキュラムを次年度以降実践していく。